

くつもの小さな共和国についても同様であった。従って、ソ連共産党の力が弱まりグラスノチ、ペレストロイカ、デモクラチザチアの風が吹けば、抑圧されてきた民族独立の動きが出てくるのが当然である。3月17日に、各共和国がソ連に残るか、独立するか意思表示となる国民投票が行われる。(新連邦条約についての国民投票)。世界はかたづを飲んでこれを見守っている。

なお、ゴルバチョフ大統領だけではなく、ソ連の政府の人達も、中央統制経済ではやっていけないことがわかって、先進国、特に日本やドイツの経済の勉強に力を入れている。年末には、ソ連国立銀行の総裁ゲラシチェンコ氏が大蔵省に私を訪ねてこられ、日本の戦後の預金封鎖などのインフレ政策を聞いて帰られたし、今週はソ連大蔵省の幹部数名が、日本の大蔵省に、予算編成の方法などを勉強に来ることになっており、私も一晩晩餐会を主催して種々お話しする予定である。ソ連国民がしあわせになるように、出来る限りの協力をしたいと思う。

アメリカ経済も困難な状態に直面している。毎年巨額の財政赤字と貿易赤字を出し続けており、対外純負債国になってしまった。失業率は日本の3倍くらいの高さであり、1人当たりのGNPも日本に抜かれてしまった。昨年第4四半期から経済はマイナス成長になり、不況期に入った。私の知人であるシードマン米国連邦預金保険公社総裁の話によれば、今年の米国の銀行の倒産は180行から230行ぐらいの数になろうとのことである。世界経済全体に占めている米国経済の規模(シェア)は昭和63年で30,7%、日本が16,3%、したがって、日米両国だけで世界経済の半数近くを占めている。しかも、日米は自由主義、民主主義、市場経済の理念を共有する国であり、しかも、例えば、日本の対米輸出は日本の全輸出の34%も占めている。日本と米国とが好むと好まざるとに拘わらず、強い相互依存関係にあることは否定できない。私達は日米構造協議その他の会議で、米側と激しく口論することも少なくないが、相互依存関係にある米国が衰えることは日本にとっても決して好ましいことではない。米国との関係に限らず、どの国との間でも基本的には同じであるが、一体化、地球社会化の進んでいる世界においては、一国のみの繁栄と平和はあり得ず、共存共栄をはかるべきであり、米国に対しても、言うべきことは直言しつつ、可能な協力は行う必要があるだろう。

米ソのほか、日本と地理的、歴史的に関係の深いア

ジア諸国、自由、民主、市場経済への改革に努力している東欧諸国、累積債務の重圧に苦しむ中南米諸国、飢餓に苦しむアフリカ諸国、湾岸戦争の影響に苦しむ中東諸国など、日本からの経済協力に期待する国は多い。

日本の果すべき役割は何か。第一は、日本が得意とする経済面の協力である。私が藤枝東高校の前身である志太中に入学したのは、敗戦直後の昭和21年の春であった。入学式の日には快晴で空の青さが目にしみたが、サッカーの名門であった志太中のグラウンドは残念ながら、いも畑となっていた。そのような敗戦後のどん底からはい上がって、今、世界でも第1位の経済大国になれたのは、国民の努力は勿論だが、苦しかった時の各国からの協力のおかげである。恩返しの気持ちを込めて、貧しい国々、困っている国々に心のこもった経済協力をすべきである。金だけではなく、技術、ノウハウ、経営手法、物の考え方、勤労精神、こういうものまで一緒につけて協力する必要がある。

第二に、日本は軍事的貢献はできないが、日本が闘うべき相手は沢山ある。それは世界の貧困であり、地球環境破壊であり、災害であり、麻薬であり、病気であり、暴力である。日本はその技術力、経済力、経験を十分に生かして、これらと闘わねばならない。軍事力はもたなくても、世界人類のための人道的なこれらとの闘いにおいて日本はリーダーシップをとるべきだ。

第三に、今、ヨーロッパは統合の過程にあり、10年もたてば、ヨーロッパ連邦のようなものになる。そして、世界経済を、日本と米国とヨーロッパ連邦の3つが協力しつつ動かしてゆく時代となる。その日に備えて、日本もそれだけの国としての器量と能力を備えねばならない。

第四に、日本は世界の平和、アジアの平和のために貢献しなければならない。日本は、経済協力などの積み重ねの中で、少しずつ増えてきている国際的発言力を、平和の建設のために使わなければならない。防衛力を抑制し、武器輸出など一切やっていない日本は、世界の軍備縮小、軍事技術拡散防止の推進役たる資格をもっている。

最後に、一番大切なことは、国としての徳を積むということである。国としての徳を積むことなしには、経済力だけでは、尊敬もされず、真の発言力もつかない。日本の末長い発展のために最も大切なことは、国としての徳を積むことである。(平成3年2月18日)

(第25回卒 大蔵省国際金融局長)